

## ショウガの生育状況を確認



JA筑紫生姜出荷組合は、筑紫野市山口地区で圃場（ほじょう）巡回しました。組合員やJA担当者、加工業者の他、新規作付者や他県から視察に訪れた生産者が参加。葉や根の様子を確認し病害虫の対策などを話し合いました。11月初旬の収穫開始までに、さらに生育が進み大ぶりのショウガを収穫できると期待。

栽培品種は、爽やかな辛味と香り、瑞々しく柔らかい肉質が人気の「お多福ショウガ」。収穫した後、山の斜面に掘った横穴式の天然貯蔵庫で翌年3月頃まで貯蔵し、種ショウガとして出荷します。

組合長の末次芳幸さんは「今年の生育状況は、少雨によって全体的に遅れていましたが、現在は順調に回復しています。収穫まで管理を徹底し、今年も高品質なショウガを収穫したいです」と話しました。

## JA筑紫アネシス 敬老会



デイサービスセンターJA筑紫アネシスは、9月13日と14日の2日間、利用者の長寿を祝う「敬老会」を開き、利用者59名が参加しました。賀寿を迎えた11名に、JAから表彰状と記念品を贈りました。

またステージでは、女性部員や地域ボランティアなどが、カラオケや踊り、マジックなどの演芸を披露。利用者は歌を歌ったり、手拍子をしたりして楽しみました。

## 地元の生産者が児童に稲刈り指導



農事組合法人かじわらは、那珂川市立安德南小学校5年生と6年生の児童243名に稲刈りの授業を行いました。

組合員は鎌の使い方や稲の刈り方を説明。児童は鎌を片手に田んぼに入り、指導を受けながら慎重な手つきで稲を刈りました。初めて稲刈りをした児童は「とても楽しかったです。自分で刈り取ったお米を早く食べてみたいです」と笑顔で話しました。

収穫した米は11月にかしわ飯を作り、法人の関係者と共に味わう予定。法人代表理事の後藤敏夫さんは「稲刈りを体験することで、農業の大変さや食の大切さを少しでも知ってくれたら嬉しいです」と話しました。

## 高品質な大豆作りを目指す



JA筑紫は6日、西小田公民館で、2019年産大豆中間管理研修会を開きました。研修会には、JA管内で大豆「フクユタカ」を栽培する生産者や、福岡普及指導センター、JA全農ふくれん、JA農産課職員など19名が参加しました。

普及指導センター職員が、今年の生育状況や、排水対策を含めた今後の栽培管理などを説明。研修会后、参加者は農事組合法人西小田の畑で大豆を見ながら、病害虫の発生状況などを熱心に情報交換しました。

## 女性組合員学習会



JA筑紫は9月2日、女性組合員学習会を開き、女性組合員127名が参加しました。女性のJA運営参画についてのDVDを上映し、講演は、フリー記者の森千鶴子さんが「今、若い世代に伝えたいこと」の演題で行いました。

参加した女性組合員は「地産地消や昔から受け継がれている食育と人との交流の大切さを学びました。これからは意識を変えて若い世代に伝えていきたいです」と笑顔で話していました。